

## 日本の子供のIQはなぜ高いのか

1982年5月、イギリスの有名な科学専門誌「ネイチャー」に、心理学者リチャード・リン博士の論文が発表され、それは世界中に大きなセンセーションを巻き起しましたが、その時、これに最も関心を示して然るべき日本が独りこれを問題にしなかった事は実に意外でした。

その論文とは、リン博士を中心とする「日・英・米・仏・西独」先進5か国の学者たちが協力して、共通の智能テストに依り、それぞれの国の子供たちの智能検査を行ったのですが、「日本を除く4か国の子供たちの平均IQが100であったのに対して、日本の子供たちの平均IQだけが111であった」といふ発表だったのです。

平均IQ差が11点もあるといふ事は大変な事です。世界中がこれを問題にしたのは当然でした。中には「テストの実施に何か手落ちがあった為ではないか」といふ悪意のある批判もありましたが、多くは事実であることを素直に認めて、日本の子供たちの智能がなぜ高いのか、その原因の探究に真剣に取り組みました。

その結果、欧米の学者たちの大方の意見は「漢字の学習がその原因になってゐるのではないか」といふものでした。例へば、アメリカのメイヨー・モーリス氏は「漢字の学習は、複雑な構成を把握する幾何学的な感

覚を発達させてゐるのではないか」と推測してゐます（実はもっと大きな理由があるのですが、これは後述します）。

このやうに欧米の学者たちがその原因を探究してゐるといふのに、本家本元の日本ではジャーナリズムが採り上げて事実を報道しただけで、学者たちは何の意見も口にせず、原因の探究もしなかったのです。